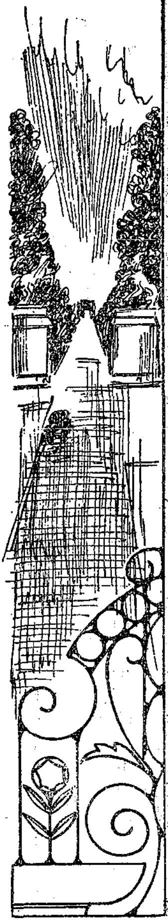
説苑



愛知縣の道路に就て（三）

山口十一郎

本縣道路鋪裝の現況は昭和十一年度の事業の完了を見まして尚延長八十粁、面積五十四萬平方米に過ぎないのであります。其の普及狀況は縣下國府縣道總延長に對して二・〇パーセント總面積に對し三・〇パーセントに當り、是れを東西の大府縣に比較しますれば正に十年の開きがあり、誠に遺憾に堪へない狀態であります。本縣に於ける道路鋪裝は大正十年度八名郡大野町地內府縣道豐橋本鄕線に於て施行せられたのを嚆矢としまして延長二百八十五米、幅員二米五〇の「コンクリート」鋪裝を擧ぐる事が出來ます。其の工法は全路幅の二分の一に對し、厚さ十五糎の一・三・六コンクリートを施工し、車輪の磨耗を受くる位置には特に各幅約五十糎の板石を据へ付け、萬全を期した積りでありましたけれども、當時尚「コンクリート」鋪裝に對する一般の認識不足と施工後の維持管理上の缺陷等により勿論今日の「コンクリート」鋪裝とは其の目的に於て稍々趣を異にする點はありましたが、現在に於ては唯痕跡を示すに

過ぎない狀態であります。然しながら當時の着想としては相當高價に買はるべきものであつたらうと思ひます。

當時本縣の道路改良事業は漸く其の緒につき、大正八年度よりは十箇年繼續事業として工費六十六萬圓を又大正十年度には三十箇年繼續事業として四千七百五十萬圓を計上せられましたけれども、時代は未だ路面改良の必要性を認むるの機運に至らず、爾來數年を空しく經過するの止むなき狀態でありました。尤も本縣中心都市たる名古屋市の鋪裝事業が稍々形態を整へましたのが昭和三年の御大典記念事業として開鑿せられました。御幸本町通り並に榮町通り名古屋驛前榮町間の鋪裝工事であるのを考へますれば、郡部に於て鋪裝要望の聲の起らなかつたのも敢へ不思議ではなかつたと思ひます。

昭和二年度に至つて瀬戸市内瀬戸多治見線及び名古屋瀬戸線に於て延長二百米、翌三年度には幡豆郡西尾町地内名古屋西尾線に於て三百米、昭和四年度には再び瀬戸市内瀬戸多治見線に於て五十米等主として「コンクリート」系鋪裝を施工せられましたが、勿論是等は試驗鋪裝の域を出ないもので、路面鋪裝の効果を期待した譯のものではないのであります。

昭和五年度は國道一號線愛知郡鳴海町地内に於て延長約二千四百米、面積一萬一千平方米餘の工事が施行せられました。是等は當時漸く地方へ進出して來た瀝靑乳劑鋪裝の試驗鋪裝で比較的多種多樣の工法が採用せられましたが、現在の成績は其の間殆ど差異のない狀態であります。

當時の乳劑鋪裝は其の仕上厚さも五糎内外を標準とした樣ではありますが、一般に乳劑が非常に貴重品扱ひにせられた時代であり、殊に地方に於ては碎石を得る事が非常に困難でありました爲、其の工費は一平方米當り二圓五十錢内外を要し、今日の中級鋪裝以上或は高級鋪裝に近い工費を要したのを考へますれば誠に隔世の感を抱かしむるものがあります。

本縣道路改良費は昭和三年度に至り既往の實績に鑑みまして更に總工費六千萬圓の繼續事業に計畫を變更せられ、

昭和六年度に於ては一躍三百萬圓の年度割支出を認められましたが、鋪裝事業は全く中斷の姿で僅に瀬戸市内に於て三十米施行せられたに過ぎない狀態でありました。

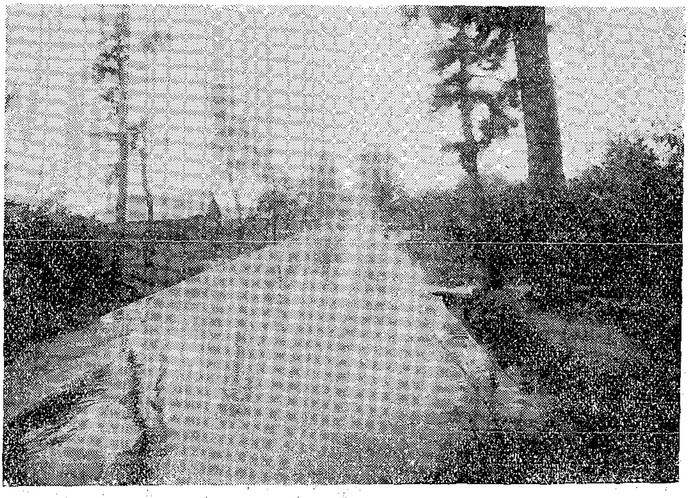
昭和七年度は本縣道路鋪裝の黎明期とも稱すべき年でありまして、本年度は特にセメント系鋪裝を主とし、國道一號線愛知郡豐明村地内の二千百米、同郡有松町地内の千二百六十米、其の他一般府縣道に於て六百七十米等合計四千餘米を、又加熱式瀝青系鋪裝としては國道一號線愛知郡鳴海町地内の千二百五十米があり、七年度合計は延長五千三百米、面積二萬五千餘平方米に及んで居ります。

昭和八年度は總延長九千五百米、總面積六萬五千餘平方米で是れに支出した工費は十七萬圓に垂んとして居りますが、其の工法は前年に引續き「セメント」系鋪裝を主とし瀝青系鋪裝としては國道一號線豐橋市並に愛知縣鳴海町の千三百米、面積六千五百餘平方米に過ぎない狀態でありました。「コンクリート」鋪裝の主なるものは國道一號線、尾張大橋取付道路及び内務省直轄施行に係る愛知郡下ノ一色町（現在名古屋市）地内の總計七百二十米、更に一般府縣道に於きましては名古屋犬山線、西春日井郡味岡村及び丹羽郡樂田村の千二百五十米、東春日井郡勝川町及び楠村地内の二千百五十米、三谷豐橋線、寶飯郡大塚村地内の千七百七十米、名古屋瀬戸線、東春日井郡守山町地内の千二百七十米其の他田口本郷線、切山蒲郡停車場線隧道内部の合計千米等があります。工法は二層式、一層式、膠石等種々雜多でありますが、大體に於て總厚十五糎程度以下の二層式「コンクリート」には現在相當龜裂を生じて居ります。

斯樣に大正十年度始めて本縣に道路鋪裝が出現して以來昭和八年度に至る十二箇年間に本縣が道路鋪裝に支出しました工費は合計二十七萬圓に過ぎないのでありまして、其の施行延長十八粁、面積十萬四千平方米と云ふ數字は當時六大都市所在地府縣（六大都市を除く）の鋪裝面積最大百五十三萬五千平方米、平均八十八萬平方米に比較しまして格段の相違がありますのみならず、爰數年來の重交通車輛の激增と共に最早や其の幹線道路は從來の砂利道では到底

満足なる保持をなし得ない状態に立ち至りましたので、愈々昭和八年度の通常縣會に工費十五萬圓を要求し満場異議なく可決せられ、爰に始めて本縣道路鋪裝費の成立を見たのであります。

昭和九年度は以上の十五萬圓を基礎とし是れに地元負擔として工費の約三分の一に該當する材料寄附或は道路法第二十四條の規定による承認工事の形式に於て工事を進むる事とし、且つ其の工法は大體の方針を瀝青系簡易鋪裝に置いて起債許可後直ちに工事に着手しましたけれども、實際の工事は晩秋より翌年二、三月頃に施行せられましたものが多く、簡易鋪裝とし



第一圖

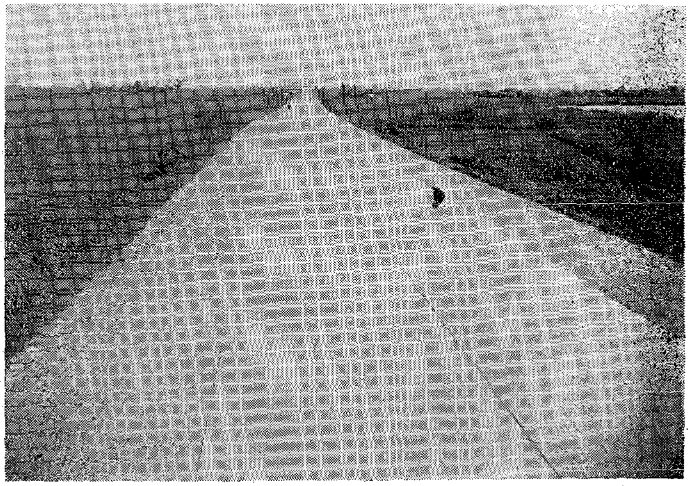
國道一號線　豊橋市三輪町地内

工法　瀝青乳劑塗裝　厚10粍

て當然の結果であるべき小破に對する認識不足から是れを相當大破に導いた事例もあり、或は保證期間に患ひせられまして却つて修繕の時期を失する等相當苦い經驗をなめたのでありますが、初年度としては當然踏むべき道程であり、非常に尊い經驗であつた樣にも思はれるのであります。兎に角現在に於きましては大體に於て完全に維持せらるゝ樣になりました。

次に當該年度に於ける工事を擧げて見ますと、國道一號線豊橋市三輪町の千五百米(第一圖)愛知郡豊明村地内の二百五十米岡崎市康生町地内の千六百米、愛知郡鳴海町地内の七百米等何れも瀝青系簡易鋪裝であり

ます。尚此以外に內務省直轄事業としての碧海郡知立町富士松村地內及び愛知郡豊明村地內の三千二百米の「コンクリート」鋪裝並に碧海郡富士松村地內（第二圖ロ繪參照）同郡矢作町及愛知郡豊明村地內の合計三千八百米の「トペカ」式「アスフワルトコンクリート」があります。更に一般府縣道に於きましては名古屋半田線、知多郡上野村地內及び同郡半田町地內の千八百米、岡崎足助線、岡崎市地內の千五百米、名古屋常滑線知多郡横須賀町地內の五百五十米、名古屋田口線、南設樂郡新城町地內の九百米、豊橋牟呂港外二線、豊橋市地內の六百四十米、瀬戸多治見線、瀬戸市地內の千五百米、蒲郡港線、寶飯郡蒲郡町地內の八百七十米、一宮大垣線中島郡起町地內の九百米、名古屋安城地線、碧海郡安城町地內の百米、室場西尾外二線、幡豆郡西尾町地內の五百米、名古屋布袋線、西春日井郡庄內町地內（現在名古屋市）の千八百米、名古屋舉母線愛知郡日進村地內の七百二十米等があります。是等の內名古屋布袋外二線の工事を除きまして盡く瀝靑乳劑マカダム工法を採用しました。其の實績は政府直轄事業の延長七千四十二米、面積四萬四千八百三十五平方米及び本縣事業の延長一萬六千



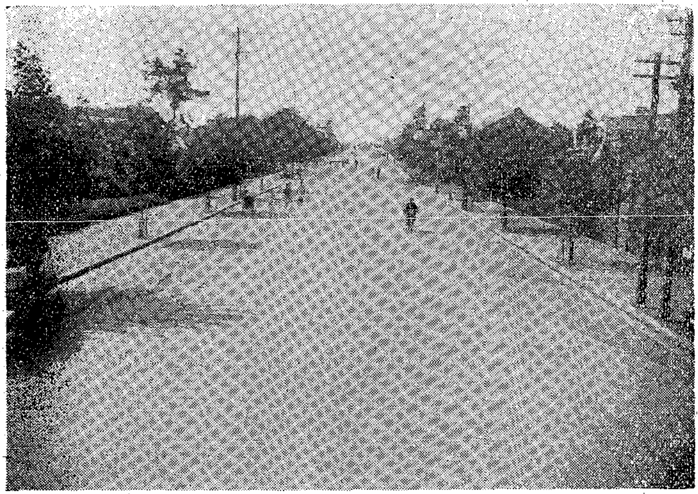
第　三　圖

國道一號線　自愛知郡下ノ一色町（現在名古屋市）下ノ一色町
至海部郡解江町

工　法　二層式コンクリート　上層厚　50粍　配合　1：1.5：3
下層厚　120粍　配合　1：3：6

七百三十一米、面積十二萬八千百八十五平方米を合しまして總計延長二萬三千七百七十三米、面積十七萬三千二十平方米に達して居ります。

昭和十年度は前年度の實績に鑑みまして更に七萬五千圓を增額致しまして、總額二十二萬五千圓として其の三分の一に當る七萬五千圓の財源につきましては負擔の公平を期すると共に、豫算の合理化を計りまして寄附金收入を充當することに決定せられました。其の主なる工事の內、內務省直轄事業の國道一號線愛知郡下ノ一色町（現在名古屋市）より海部郡蟹江町に至る延長五千五百四十七米（第三圖）並に本縣事業の碧海郡知立町地內の三百八十米は共に厚十七糎の二層式「コンクリート」で鋪裝せられ同線岡崎市地內（第四圖）の新國道延長二千四百四十米は加熱式アスフアルトコンクリート（細骨材式）を以て是等は何れも一先づ二車線六米丈け鋪裝せられました。其の他豐橋市吳服町通りの六百九十米、岡崎市見町地內の千二百米、碧海郡安城町地內の七百三十米等は何れも未改築區間でありますので、是等は何れも乳劑塗裝工法を採用しました。

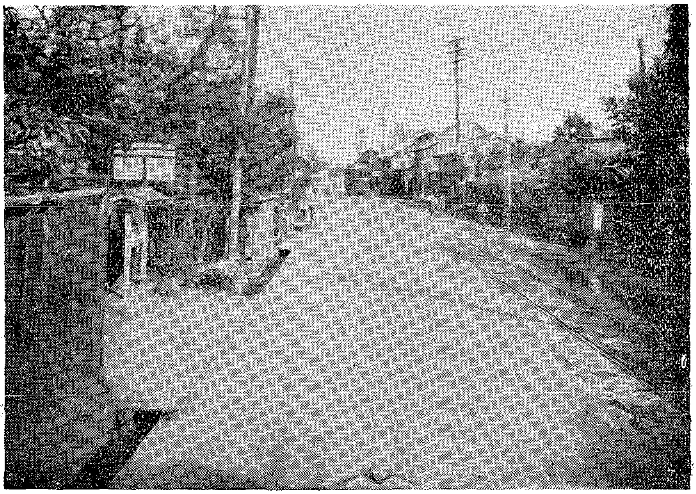


第　四　圖

國道一號線　岡崎市地內
工　　法　細骨材式アスフアルトコンクリート
上層厚　50粍　アスフアルトコンクリート
下層厚　120粍　配合 1:3:6 コンクリート

一般府縣道中名古屋常滑線知多郡常滑町地內及び名古屋瀨戶市地內合計千四百米は

何れも特殊工業都市であり、荷馬車「トラック」により絶へず粘土を振ひ落され、其の爲に路面は常に著敷汚されますので特に二層式「コンクリート」工法を採用し、其の他の箇所は九年度の實績に鑑みまして施工箇所が散在して居る今日の狀勢に於きましては保守上の困難を恐れまして、是れに最小限度の「コンクリート」基礎を附し、換言すれば「コンクリート」の簡易鋪裝（配合一、三、六）の表面を乳劑を以て被覆する様な工法を採用して見ました處、其の結果は非常に良好でありました。尤も其の工費は一平方米當り一圓七十錢程度を要しますから、所謂簡易鋪裝に比較しましては相當の開きがあります。然しながら一層式「コンクリート」厚十糎程度の「セメント」系簡易鋪裝に比較しますれば勿論工費も安く修繕も容易であり、自動車の「ドライブ」に感ずる施工目地の不快な振動もなく、中等程度の交通量を有する路線には比較的良い結果を齎らすのではないかと思ひます。此種類の鋪裝箇所としましては、府縣道一宮大垣線、中島郡起町地内（第五圖）延長七百七十米を始めとして名古屋西尾線、碧海郡知立町地内の六百三十米擧母半田線同郡刈谷町地内の八百八十米、名古屋半田線知多郡半田町地内の五百四十



第五圖

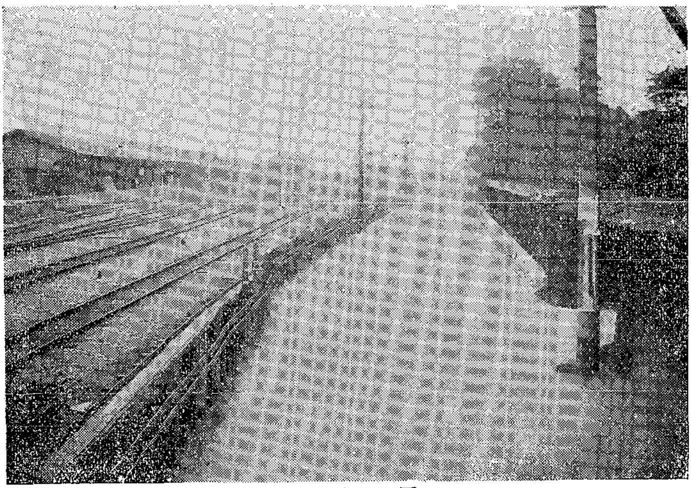
府縣道一宮大垣線　中島郡起町地内

工　法　上層厚　20粍　瀝靑乳劑マカダム

下層厚　100粍　1:3:6 コンクリート

米、田原豐橋停車場線の六百十米、名古屋常滑線、知多郡橫須賀町地內の九百五十米、岡崎安城外一線、碧海郡安城町地內の五百五十米、室場西尾外三線、幡豆郡西尾町地內の七百三十米、名古屋擧母線、愛知郡天白村地內の五百四十米、岡崎足助線、岡崎市地內の五百二十米等が夫れであります。此內政府直轄事業は延長五千五百四十七米、面積三萬三千六百六十九平方米、縣事業は延長一萬四千三百二米、面積十萬一千二百三十三平方米、合計延長一萬九千八百四十九米、面積十三萬四千九百二平方米に達しました。

昭和十一年度事業は起債等の關係もありまして、大部分昭和十二年度に繰越され、目下工事中の分も相當ありますが、是等が竣功の曉は總計延長一萬八千二百六十八米、面積十三萬一千二百十九平方米となる見込であり、豫算は前年同樣總額二十二萬五千圓であります。其の內、內務省直轄工事は海部郡永和村より同郡彌富町に至る國道一號線の延長四千四百七十米の二層式「コンクリート」鋪裝のみでありますが、是れで名古屋市より三重縣界に至る本縣管內の國道一號線は全線完成を告げた訣であります。



第六圖

府縣道半田師崎線　知多郡半田町地內

工法　上層厚　20粍　瀝靑乳劑マカダム

下層厚　100粍　1:3:6 コンクリート

本縣事業としましては半田師崎線、半田市地內（第六圖）の六百米を始めとしまして

名古屋擧母線愛知郡日進村地內の八百米、一宮大垣線、中島郡起町地內の八百六十米、同線一宮市地內の七百二十米岡崎足助線及岡崎蒲郡線岡崎市地の二千三十米、岡田龜崎港線、半田市地內の六百四十米、名古屋西尾線碧海郡知立町地內の七百米、擧母半田線、刈谷町地內の千三百米、平坂吉田線、幡豆郡一色町地內の五百二十米、安城刈谷線、碧海郡安城町地內の八百三十米、名古屋足助線、東加茂郡足助町地內の四百五十米、田原福江外二線渥美郡田原町地內の五百米、名古屋大濱線、碧海郡高濱町地內の三百五十米、名古屋布袋線、西春日井郡山田村地內の三百七十米、其の他國道一號線、豐橋市地內の六百八十米、同線碧海郡安城町知立町地內の千六百米、國道三十號線、豐橋市地內の五百米等があり、是等の內一宮市及足助町地內は二層式「コンクリート」工法で國道一號線、碧海郡知立町安城町地內名古屋擧母線及び名古屋布袋線の三線は瀝青乳劑路面處理工法を其の他は總て十種の「コンクリートベース」を設け上層は厚二糎の乳劑「マカダム」工法としました。

　昭和十二年度事業は目下起債認可申請中であり、從つて勿論未だ着手に至らないのでありますが、其計畫は前年通り總豫算二十二萬五千圓、計畫箇所十七箇所延長十二粁九萬二千餘平方米となつて居りますが、政府の起債政策によりまして恐らくは其の三分の二程度の事業に落ち付くのではないかと思ひます。（つゞく）

鋪裝工事系統工法別集計表（第一表）

系統別	延長（米）	面積（平米）	工法別	延長（米）	面積（平米）	備考
セメント系鋪裝	三一、二六八・六二	一九三、六六六・一九	一層式コンクリート	一、六八六・一五	八、一五三・一一	
			二層式コンクリート	二四、九二〇・〇七	一五四、〇二八・一三	
			膠石コンクリート	四、六六二・四〇	三〇、八二二・六五	

種別	延長	面積	細別	延長	面積	備考
			(コンクリート板		六七二・三〇	歩道
瀝青系鋪裝	四八、七六〇・四八	三四九、四八九・九八	瀝青乳劑マカダム	一四、六七三・三五	二一、二五二・七九	基礎在來路床
			瀝青乳劑路面處理	四、九三二・八七	三〇、九〇八・七八	同(仕上厚二糎以下)
			ターマカダム	三三七・五〇	一、一三五・〇〇	同
			基礎コンクリート表面乳劑處理	二〇、一二三・八五	一五四、九四三・〇二	
			加熱式瀝青系鋪裝	二、六六八・九九	一五、二一一・六三	同
			基礎コンクリート同上	五、八九六・九二	三六、一三八・一六	
計	八〇、〇二九・一〇	五四三、一五六・一七		八〇、〇二九・一〇	五四三、一五六・一七	

備考　本表ニハ昭和十一年事業ニシテ昭和十二年度ヘ繰越目下工事施行中ニ係ル分モ便宜掲記ス
昭和十二年度事業ハ未着手ナルヲ以テ省略ス

年度別鋪裝工事一覽表　(第二表)

施行年度	國道 延長 (米)	國道 面積 (平米)	府縣道 延長 (米)	府縣道 面積 (平米)	合計 延長 (米)	合計 面積 (平米)	備考
大正十一年度	—	—	二六四・六三	六三七・五〇	二六四・六三	六三七・五〇	
昭和二年度	—	—	二〇〇・〇〇	八二〇・〇〇	二〇〇・〇〇	八二〇・〇〇	
昭和三年度	—	—	二九二・〇四	一、八七七・三九	二九二・〇四	一、八七七・三九	
昭和四年度	—	—	五〇・〇〇	二六二・五〇	五〇・〇〇	二六二・五〇	
昭和五年度	二、一二九・三三	八、九六四・八六	二四九・〇〇	一、〇六一・六五	二、三七八・三三	一〇、〇二六・五一	

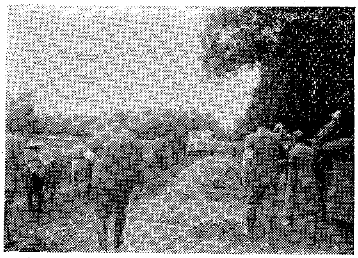
昭和六年度	—	—	三〇・〇〇	二三五・〇〇	三〇・〇〇	二三五・〇〇	
昭和七年度	四、六一四・二〇	二〇、六八〇・五九	六七一・二〇	四、三三七・一〇	五、二八五・四〇	二五、〇〇七・六九	
昭和八年度	二、〇六九・八四	一一、四七九・八九	七、四四八・八九	五三、六七八・八七	九、五一八・七三	六五、一五八・七六	
昭和九年度	二、一四九・四一	六八、四九四・〇二	一三、六二四・〇一	一〇四、五二六・六一	一五、七七三・四二	一七三、〇二〇・六三	
昭和十年度	一一、四一八・六五	七一、五四二・三六	八、四三〇・二三	六三、三五九・一五	一九、八四八・八八	一三四、九〇一・五一	
昭和十一年度	七、一六八・六七	四八、四五四・四八	一一、〇九九・〇〇	八二、七六四・二〇	一八、二六七・六七	一三一、二一八・六八	十二年度ヘ繰越工事中ノ分ヲ含ム
合計	三八、六五〇・一〇	二二九、六一六・三〇	四一、三七九・〇〇	三一三、五三九・九七	八〇、〇二九・一〇	五四三、一五六・二七	

備考 本表中昭和八年度以降ノ數字ハ工事ノ都合上翌年度ヘ繰越施行シタルモノモ便宜當該年度ニ竣功シタルモノトシテ掲記ス

道路鋪裝事業費一覽表（第三表）

年度	國直轄事業	本縣事業	合計	備考
大正十一年度	円 —	円 —	円 —	工費不詳
昭和二年度	—	二、八七〇・〇〇	二、八七〇・〇〇	昭和二年度ヨリ昭和八年度ニ至ル間及國直轄事業中ニハ雜費ヲ含マズ
昭和三年度	—	五、〇八一・〇〇	五、〇八一・〇〇	昭和九年度以降ノ縣工事費中ニ雜費ヲ包含ス
昭和四年度	—	九〇九・〇〇	九〇九・〇〇	
昭和五年度	—	二七、六三三・〇〇	二七、六三三・〇〇	
昭和六年度	—	七五三・五〇	七五三・五〇	
昭和七年度	—	七一、五五六・六五	七一、五五九・六五	
昭和八年度	九、三五八・八七	一五六、〇三七・一七	一六五、三九六・〇四	翌年度ヘ繰越シタル事業費ハ便宜當年度ヘ加算ス
昭和九年度	一〇九、五五八・二九	一五〇、〇〇〇・〇〇	二五九、五五八・二九	

昭和十年度	一〇〇、〇九六・七三	二三五、〇〇〇・〇〇	三三五、〇九六・七三	同
昭和十一年度	七八、一四三・七二	二三五、〇〇〇・〇〇	三〇三、一四三・七二	同
昭和十二年度	—	二三五、〇〇〇・〇〇	二三五、〇〇〇・〇〇	工事未着手
合計	二九七、一五七・六〇	一、〇八九、八四〇・三三	一、三八六、九九七・九三	



東葛飾郡福田村地方巡視中の清水經濟部長（帽子を右に持てるが部長）

國民精神總動員下 千葉縣道路愛護運動

宮崎正夫

一

政府が戰時體制强化の基調として國民精神總動員强調週間を實施し（自十月十三日至十月十九日）銃後の護の完璧を期せんとせらるゝや、本縣に於いては去る十月十八日「勤勞報國」の日を期し、これに相應せる諸般の行事（勤勞奉仕班の一齊活動、勤勞倍加運動の徹底、自治肥料增産の徹底、神社忠魂碑の清掃等）を實施し、依りて以て國民精神の高揚强化に努めた。我が道路愛護運動もその最も主要なるものゝ一つであつて、道路愛護會員其他を含めて出動者實に八萬六千餘名外に道路工夫全員二百三十六名。降りしきる秋雨の下に續けられたその熱烈火の如き作業振りは、縣民の間に横